

令和4年度平塚市母子保健事業推進連絡会 会議録

日 時 令和4年10月27日（木）午後1時30分から午後3時00分まで

会 場 保健センター2階 健康学習室

出席者 中村千里委員、鈴木基委員、小清水勉委員、富岡順子委員

事務局：磯部課長、萩尾課長代理、竹埜課長代理、樹本課長代理、平田課長代理、
佐草主管、古畑主査、小山主査

1 開会 平塚市健康課長挨拶

構成員交代 平塚保健福祉事務所三尾早苗委員→富岡順子委員（令和4年8月1日付）
委員及び事務局職員自己紹介

2 議題

（1）令和3年度母子保健事業実施報告及び母子保健計画進捗状況について

（資料1-1～5）

令和3年度事業実施報告について

事務局説明

（資料1-1）

○母子手帳交付数、妊婦健診受診数 年々減少

○新型コロナウイルス感染症予防及びコロナワクチン接種事業のため、事業の中止、または実施方法の変更をした

母親父親教室は、Hello Baby 育児体験で代替えし、個別指導を実施し68件に増加
離乳食教室は行動制限中試食を中止した

○産後ケア事業の産後メンタル相談は、本人の来所による相談のみでなく、スタッフがケースの支援について助言を受けているため増加

○相談事業 令和4年1月から再開したため、1月から3月までの実績

中止していた期間は、電話、訪問、来所により個別対応を実施

○子どもの生活習慣病予防対策事業の巡回教室は、テキストの配布による対応もあった

○地域依頼の健康教育などは、子育て支援事業の中止により減少

（資料1-2）

○こんにちは赤ちゃん訪問 訪問率88.8%に低下。理由は、里帰り期間の長期化や新型コロナウイルス感染症が落ち着いてからの訪問希望等で訪問時期がずれて、訪問は行っているが、こんにちは赤ちゃん訪問の期間内（生後4か月まで）に調整できなかったことが影響した

拒否の理由に「家に入れたくない」が増加 新型コロナウイルスが影響した

こんにちは赤ちゃん訪問未訪問者の状況は4か月児健診までに全て把握

(資料1-3)

○健診状況 (医科)

ページ3 「3歳児健診所見及び相談状況」→「3歳児健診所見及び相談状況」に修正

表1-1～1-4

8～10か月児健診、3歳児健診の受診率は前年より増加、4か月児健診、1歳6か月児健診の受診率は前年より低下

表4-1 1歳6か月児健診 保育の要観察数「223件」に増加。内訳は、言葉による経過観察が70%。令和2年度と割合は一緒だった

○歯科健診 表1-1・1-2 表内の右上「ハイリスク児率」が見切れている

表1-3 2歳児歯科健診 前年より受診率増加

○乳児健康診査未受診者訪問結果

(資料1-4) 未受診者は全数把握している

「3歳児健診の状況把握できず継続中」が0件なのは、3歳児健診後は健診がないため、こども家庭課で医療情報や所属が確認できた場合、「把握済」の中の「フォロー（本市事業の中で対応）」に計上しているため

○令和3年平塚市新生児聴覚検査の実施状況

(資料1-5) 令和2年7月から開始 実施詳細結果 AABR の「リファー」の中で「*異常なし3」「*難聴6（うち両側3）」「*不明1」は再検査予定

検査方法不明は、母子手帳に結果は記載があるが、わからなかったもの

未受検62件の理由は、必要性を感じていない、金額面で受けなかったなどだった。今後も母子手帳交付時や母親父親教室等で必要性を引き続き周知するが、医療機関でも引き続き必要性を伝え、勧奨して欲しい

座 長：質問等あるか。

小清水委員：新生児聴覚検査結果がまとまっているので分かりやすい。実施数も多いのは良いが、未受験者に対して、必要性が分からない人もいようだが、持っていく方で何とかなるのではないか。この検査を逃すと治療の開始が遅くなり、言語の獲得にもかかわってくる。この検査は児への影響も少ないので、全員ができるようにして欲しい。

事務局：この事業は国の交付税の対象で全国的にしっかり行うことが求められている。本市では自己負担が少し発生するのが現状。課題としては、病院によって技師が検査を行うので、検査費用が高くなり、自己負担金が高くなることなどがある。今後補

助のあり方を考える必要がある。

小清水委員：言語の獲得に影響するので多くの方に検査を受けてもらいたい。何とか頑張る。

中村委員：耳鼻科の医師に確認する必要があると思うが、風疹の罹患等に関係ないか。

小清水委員：先天性風疹症候群はほとんどない。児への呼びかけに反応しても調べると聴覚が弱いこともあるので、検査は必要である。リファーになった時は、大学病院等で精密検査を受けることになる。

事務局：県でも熱心に取り組み、県内の取り組みの一覧表を送付してくれるが、県内では公費負担や償還払いの未実施、結果も未把握などところも多い中で、本市は制度の整備やリファーへのフォローがよく行われている状況である。

リファーの場合、生後3か月までに精密検査を受けて、6か月までにフォローが必要とされているが、聾学校とも連携し、療育につないでいる。

未受検者には産科医療機関で検査の提案を複数回行うところもあるが、一度断られるともう案内しないというところもあり、対応がバラバラなのが実情。また、母も上の子が大丈夫だったから、という間違えた認識をしていることも多いので、一人一人違うことや検査の必要性を丁寧に伝えることが必要である。

中村委員：新規事業であり、今後も継続的に状況を見守っていく必要がある。

富岡委員：こんにちは赤ちゃん訪問（資料1-2）「こんにちは訪問未訪問者のその後の把握状況」の4か月児健診未受診者13件の詳細と、把握方法を知りたい。

事務局：13件の詳細は不明だが、把握方法は訪問や電話を何回か行い、あまりにも把握ができない場合は、こども家庭課と連携して所属の有無、医療機関受診状況などを確認している。何らかの方法で全数把握を行っている。

鈴木委員：行政の方たちが頑張る事業を行っていることが良く分かった。こんにちは赤ちゃん訪問の拒否の理由で「保健センターの関わり拒否」が1件あるが、詳細分かるか。

事務局：詳細不明だが、過去に何かあった可能性がある。

鈴木委員：歯科健診について、1歳6か月から3歳にかけてう蝕罹患率が10倍にあがっているので、人員が不足していると聞いているが2歳児歯科健診を頑張る欲しい。

中村委員：乳幼児健診結果（資料1-3）の6ページ、3歳児健診での肺炎球菌1回目の接種率がヒブやB型肝炎より低いのは間違いではないか。

事務局：会議後に確認し、91.7%から99.5%に修正する。

（2）令和4年度新規事業について

ア 平塚市産婦健康診査

事務局説明（資料2、産婦健診票、EPDS質問票）

○対象：令和4年7月1日以降に出産した産婦に対し、産後3～8週間以内。

○実績：10月26日まで19件医療機関から連絡があった。市内14件、市外5件。

EPDS9点以上13件、うつの2項目質問票2件、EPDS10番にチェックあり

が4件。フォローはこんにち赤ちゃん訪問を行い、その後もフォローが必要な場合は継続する。訪問時間問題がなくても4か月児健診までフォローする。

小清水委員：EPDSは点数になって分かりやすいのと、もれがなくなって良いと思う。また、それまでマークしていない人も見つかるのも良い。

中村委員：まだ開始したばかりの事業であり、今後の成果を見守る必要がある。

富岡委員：連絡があった中で、すでに把握していた人が多かったのか。新たに把握する人はいるか。

事務局：どちらもいる。

イ 3歳児健康診査における屈折検査について

事務局説明（資料3）

○開始時期：令和4年7月の3歳児健診受診者

○実績：受診者数（7月～9月）403人、検査数391人、検査できなかった（管理中含む）12人、屈折検査精密検査票発行数53人

中村委員：検査できなかった場合、小児療育センターに行って二次検査を行うのか。

事務局：二次検査は保健センターに小児療育センター職員が来て行う。

以前は、調査票を保護者が記入し、3歳児健診時に提出、それを小児療育センターに送付し、必要なお子さんに対して4か月後に二次検査を行っていたので、確定するまでに5～6か月かかっていた。3歳児健康診査当日に屈折検査を行うことで、結果がその日のうちに分かり、1か月位で医療機関に見てもらえるので、早期にフォローできるようになった。

中村委員：精密検査票の発行が多い印象。精密検査の結果は医療機関から来ているか。

事務局：結果は数件把握しているが、何かしら経過観察になり、医療機関がフォローしている状況であることから、この検査を行う意味があると感じている。

中村委員：精密検査を行う眼科医療機関は足りているか。

事務局：現在眼科医療機関は5か所。現時点で増やすことは考えていない。

富岡委員：屈折検査の割合はどのくらいか。

事務局：屈折検査による精密検査連絡票の発行率は15%程度。屈折異常は今までも5%位。

ウ オンライン育児相談

事務局説明（資料4、ちらし）

○開始時期：令和4年4月

○実績：5件（離乳食、歯の手入れ、寝かしつけ、しつけなど）

中村委員：コロナの時期に合っている。電話だけでは状況が分からない場合に良いのではないかと。画面を通して行い、分かりやすいし、有効性はある。オンラインではなく、対面が良い場面もあるが、相談はメリットも感じる。

事務局：コロナが落ち着いているのと、開始したばかりで月1件程度。Webex Meetingsはビジネス用なので、相談者も普段から使い慣れていない。職員もまだオンラインに慣れていないので、勉強しながら実施している。

富岡委員：5人はどんな方だったか。

事務局：母だけではなく父もいた。普段相談をしている方と大きな違いはなく、質問を事前準備し、回答をメモする人、オンラインに慣れていない人も多かった。PCで参加している人が多い。30分をしっかりと利用していた印象。

エ 産後うつ予防アプリ

事務局説明（資料5・平塚市の産後うつ対策フレームプリント）

○開始時期：令和5年1月

○対象：市内に住民票のある妊産婦とそのパートナー

中村委員：アプリの著作権は県なのか。

事務局：著作権はemolが持っている。平塚市の市民であることを条件に使い放題プランで行う。

中村委員：できれば利用者は無料が良いと思うがどうか。誰でもいつでもリラックスできると良い。実際にやってみたか。

事務局：昨年度の実証実験時にサンプルで試した。

富岡委員：ホームページ等に張り付けるのか。

事務局：URLをホームページに添付予定。アクセスすると必要事項を入力することが求められる、利用できるようになる。国の補助金を利用し、アプリの会社に市が使用料を払う。利用者は無料で実施できる。

昨年度実証実験を行い、114人が申し込み、半数がアプリを利用して途中経過ではあるがEPDSの点数の低下等のエビデンスが得られた。現在ポスターやチラシを作成中であり、今後医療機関に配布するのでよろしくをお願いします。

オ 産後ケア事業（ショートステイ・デイサービス）

事務局説明（資料6）

○開始時期：令和5年1月

○対象：家族などから出産後の支援が受けられない、産後の体調不良や育児不安がある方
産後4か月未満（36週6日までに出産した場合、修正月例で4か月未満）

中村委員：協力機関決まっているか。

事務局：10月24日に説明会を行い、アンケート調査中。

小清水委員：入院期間を延ばして欲しいという人もいて、それなりに対応していたが、色々な方がいるので、このように選択肢が増えて対応できるのは良いこと。産科医療機関では1か月位の児のみしか対応できないが、色々な調整がついてそういうところも整

うと良いのではないか。気軽に利用できるような環境があると良い。

中村委員：4か月児未満が対象とのことだが、もっと児が大きくなると、一時保育などのニーズも増えてくるのではないか。

小清水委員：本当に困っている人が使えるようになると良い。

事務局：それぞれの施設に合った条件でできるところが増えて欲しい。自院で出産した産婦に限る等条件付きで引き受けられるところもあると説明会で把握したので、柔軟に対応できるようにしたい。

中村委員：新規事業については、引き続き状況を見守っていきたい。

他に何かあるか。なし。

(3) その他

特になし

3 閉会

以 上